

思ひわびやしても命は

堪
其其甚

あるものを真夜中に堪へぬ

は涙なりけり

つれない人のことを思い、これほど悩み苦しんでいても、
命だけはどうにかあるものの、この辛さに耐えかねるのは
(次から次へと流れる)涙であることだ。
(百人一首 八二番 道因法師)

中一ニ三